

「まどガラスと魚」【出典:「3年 生きる力」日本文教出版】

主題名: 自分に正直に【A-2 正直, 誠実】

- 1 日 時 令和2年 11月 5日(木) 6校時
- 2 学 年 第3学年 3名 第4学年 5名 計8名
- 3 ねらい お姉さんの行動を見て考えた千一郎の気持ちを考えることを通して、正直にできないときの後ろめたさや苦しさについて考え、正直に明るい心で元気に生活しようとする道徳的実践意欲を高める。
- 4 主題設定の理由

単元観

第3学年及び第4学年の指導内容A-(2)は、「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」に関する内容項目である。

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。自分の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのときに、自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いは一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や心のもやもやが生じる。

それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にすることを育てていくことが重要である。

児童観

指導観

導入では、題名を板書し、「まどガラスと魚」という不思議な組み合わせの題名がなぜついたのか考えさせながら、範読する。

展開では、窓ガラスを割ってから謝りに行くまでの4日間、千一郎はどんな気持ちで過ごしていたかを考えさせる。自分が魚を盗んだわけではないのに、一軒一軒回って、その家を探して謝ったお姉さんの姿から、千一郎が受け取ったメッセージを児童に考えさせる。その後、お詫びに行き許してもらった時、千一郎はどんな気持ちになったかを考えることで、正直に明るい心で元気に生活しようとする道徳的実践意欲を高める。

終末では、「まどガラスと魚」という題名に戻り、題名に込められている意味について考えさせることで、これからの自分に生かしていく合言葉として、とらえさせる。

5 本時の展開

(1) 評価について

【評価の観点】正直に行動する前後の千一郎の気持ちの変化から、正直でいることの大切さに気づくことができる。

正直に明るい心で元気よく生活しようとする道徳的実践意欲を高めている。

【評価の方法】道徳ノート・発言

(2) 準備物

挿絵

(3) 展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問 ◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など(●) 評価(★)
導 入	①「学習テーマの提示」 1 本時の学習への興味や関心を高める。	○「まどガラスと魚」不思議な組み合わせですね。どういうお話だと思いますか。 ・まどの近くにある水槽で金魚を飼っているお話。 ・庭の池で飼っている魚をまどから見ているお話。	○「窓ガラス」と「魚」が、どういう場面に出てくるか考えながら範読を聞かせる。
展 開	②「追求活動」 2 教材「まどガラスと魚」を読んで考え、話し合う。	○窓ガラスを割った日、次の日、その次の日、千一郎はどんな気持ちで過ごしたでしょう。 ・にげちゃいけない。あやまらなきゃいけない。 ・どうしよう。いつかばれるかもしれない。 ・謝りに行かなくてはならない。でも怒られるのはいやだ。 ◎どの家か分からない家を探し出して謝罪しに来たお姉さんの行動を知り、寝るまでの間、千一郎は、どんなことに気がついたのでしょうか。 ・正直に言おう。 ・このまま黙っていては相手も自分も気持ちよくない。 ・お姉さんは自分が盗んだわけではないし、どの家か分からなくても、家を探して謝った。ぼくも正直に言って、謝ろう。 ○お詫びに行きつづけてもらえた時、千一郎はどんな気持ちになったのでしょうか。 ・許してもらえてよかった。ほっとした。 ・もやもやしていたけれど、ちゃんと言えてよかった。 ○自分に正直にとは、どういうことだろう。 ・ごまかすことではなくて、ガラスを割ったことを言ってあやまることが、自分に正直にすること。 ・「ごまかしたい」という思いではなく、「本当のことを言わなくちゃいけない。」という思いが自分に正直な気持ちだから。	○「遠回りをして、その家の前を通って」いる姿から千一郎の葛藤する気持ちを捉えさせ、謝りに行けない千一郎の弱さについて着目させる。 ●次の日の朝も、まだ割れたままだった窓ガラスの場面絵を示す。 ○正直にできない時の後ろめたさや苦しさにについて考えさせる。 ○「一けん一けん聞いて回って」という記述に着目させる。 ○「千一郎は、なんだか、あじの大きな目で見つめられたように」の記述に着目させる。ふだん「魚」の目を見ても感じないことをこの時の千一郎は感じていることに気づかせる。 ★正直に行動する前後の千一郎の気持ちの変化から、正直でいることの大切さに気づくことができたか。(道徳ノート・発言) ○「もし許してもらえてなかったら千一郎は言わない方がよかったのかな。」と児童に問い、許してもらえなかった場合、千一郎はどんな気持ちになったかを考えさせ、正直に言って謝ることの価値に気付かせる。 ○題名の隣にある「自分に正直に」というキーワードに着目させる。 ○題名について考えさせ、割れた「まどガラス」を見て、はっとしたこと、「魚」の大きな目で見つめられたように思ったことが、このお話の道徳的な視点での「みそ」であることに気づかせる。

終末	③ 「児童一人一人のふりかえり」 3 本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○正直にするために大切な気持ちは何だろう。今日の学習で気づいたこと、新しく考えたことを書きましょう。 ・ごまかしたりうそをついたりしたら、もやもやするけど、正直に言えたら、すっきりする。 ・ずっともやもやなまますごしたくない気持ち。 ・ごまかしたいと思う時にごまかすことは、正直とはちがう。 ・おこられたくないからごまかすのは、本当の正直とは言わない。 ・正直にすごすことは、自分もみんなもすっきりした気持ちになる。 ・これからは、ごまかさずに自分に正直にすごしたい。	★正直に明るい心で元気よく生活しようとする道徳的实践意欲を高めているか。(道徳ノート・発言)
----	--	--	---

6 板書計画

まどガラスと魚 正直に明るい心で	場面絵④ 千一郎が謝る場面 ○おわびに行ってゆるしてもらった時の千一郎 ・ゆるしてもらえてほっとした。 ・もやもやしていたけど、正直に言えてよかった。 ・正直に言えて、すっきりした。 ・これからは、すぐに言おう。	場面絵③ お姉さんが来た場面 ○お姉さんの行動からねるまでの千一郎 ・お姉さんは正直に言えてすごいな。 ・ぼくも正直に言わないとだめだ。 ・まどガラスの家の人はいやな思いをしたまま。	場面絵② 翌々日の朝 ・正直に言おうかな。でも言えない。	場面絵① 翌朝の窓 ・ばれたらどうしよう。 ・あやまりに行ったほうがいいけど、おこられるのは、いやだ。 ・おこられたくない。 ○まどガラスをわってからの千一郎 まどガラスと魚 自分に正直に
--------------------------------	---	---	---	--